

令和元年度 外部有識者による主な意見とその対応状況

令和2年3月31日

(アンケート設問) 三大学の経営統合をはじめ、大学運営等に対する要望等
 その他、大学に対して要望がありましたら自由にご記入ください。

NO	イベント	主な意見（大学に対する要望）	対応状況
1	ちくだいホームカミングデー	三大学のイメージは、小樽（商業、経済）、帯広（農業、家畜飼育、畜産製造）北見（ハッカ、玉ねぎ、他北方作物）、この社会通念を破って北海道企業のニーズを掘り起こし、それにこたえる研究を三学共働で開発することが必要。	帯広畜産大学、小樽商科大学、北見工業大学の三国立大学法人は、令和4年4月の経営統合（北海道国立大学機構）に向けて準備を進めていますが、研究においては、学問分野融合による「知の社会実装」を推進するため、オープンイノベーション・センターにおいて農学・商学・工学の研究データを一元管理して知識集約型社会を見据えた産学官連携を推進するとともに、「企業等（産学官金）連携プラットフォーム」の形成等産業界のニーズを直接的に把握して効果的な共同研究を企画・実施できる体制の整備を目指します。
2	ちくだいホームカミングデー	経営統合により上記（問4）の6項目のすべてが改善され、向上する様希望しますが、そのためには財政面での上昇が基本になると思います。その点を最も努力してもらいたいです。三大学で不公平感が出ないように願います。 ※（問4）6項目（学生支援、教育、研究、国際、社会貢献、管理経営）	統合後の国立大学法人北海道国立大学機構及び三大学は、財務・人事・総務等を法人組織に集約するなど事務局体制を再編し、業務効率化を推進します。また、法人には各学長が大学総括理事として配置されますので、大学間での偏りが生じないように調整することになります。
3	ちくだいホームカミングデー	大学運営では物作り教室的なものがあれば市民がもっと畜大に興味を持つと思います。（例えばウィナー作り教室）	本学では、これまで教員や学生が体験学習ブースなどを出展し大学紹介をする「畜大ふれあいフェスティバル」、学内耕作地の一部を利用し市民の皆様と農作物を育てる「どきどきファーム」、市民の方々に酪農の魅力を紹介する「ふれあい牧場親子体験学習」、学生が企画したスポーツ教室等、物づくりを含む様々な体験学習事業を実施してきております。今後も市民の皆様が大学に興味を持っていただけるような企画事業を実施して参ります。
4	ちくだいホームカミングデー	小樽のビジネススキルをもった畜大生を育てられたらいいですね。経済界でそれなりの人を輩出できたら将来も安泰。	三大学連携の教育プログラムとして、文理融合的・異分野融合的な知を備えた人材を育成するため、学部教育の1、2年次においては数理・データサイエンス科目、文理融合導入科目、地域の理解・課題解決型科目等を提供するとともに、3、4年次においては商学・農学・工学の専門に加えて異分野の知識・理論等を学ぶ文理融合教育プログラムを検討中です。
5	産学官金交流会	地域への人材提供、農業者を養成して欲しいです。	チャレンジ精神を持って、企業経営、異業種参入、起業、地域の経済発展に寄与する「リーダー」人材の育成を目指したフードバレーとかち人材育成事業を帯広市との共同事業として大学院生及び地域の方を対象に各種研修コースを実施しています。 令和元年度は、「ビジネスコース」、「食品安全管理コース」、「農業生産者コース」の3つのコースを柱として実施しました。

NO	イベント	主な意見（大学に対する要望）	対応状況
6	産学官金交流会	地域に開かれた大学。観光への取り組みを進めていただきたい。農・食の発信地として。	三大学連携の研究プログラムとして、オープンイノベーション・センターを拠点として、北海道の主要産業の活性化に資する研究や自然環境の特性を利用した課題解決型の研究を通じてイノベーションを生み出すための分離融合研究を重点的に推進することを目指しており、その中で観光も推進する予定としています。
7	産学官金交流会	十勝地域における機能性表示食品のためのヒト試験体制の充実。	厚生労働省の「ヒトを対象とした医学系研究に関する倫理指針」に基づく体制を整備しており、審査機関の委員には、薬・食・医の学内専門家のほか、十勝地域に精通した弁護士やとかち財団職員などの外部有識者を加え、基礎研究から臨床試験に至るまでの一貫したサポート体制を構築しています。
8	産学官金交流会	学問の産業への活用だけでなく、将来を担う学生や研究を行う先生方へ産業界、金融界からどのような便益を提供できるか希望されるか聞きたいです。	お金に関して学ぶ機会の提供を目的として、令和元年11月13日に日本証券業協会から講師を派遣頂き、学生対象、及び教職員対象の金融リテラシーセミナーを分離開催しました。このように、本学のカリキュラムにはありませんが、実社会において役に立つセミナーなどを企画、提供したいと考えております。
9	産学官金交流会	研究シーズ集はより充実させて、ネット等広くPRできるとよいと思います。	平成31年1月に研究シーズ集を作成し、ダウンロードできるよう改め、ホームページに掲載しておりますが、今後もより内容を充実するよう更新してまいります。 また、令和元年8月に冊子体シーズ集を刊行しておりますが、展示会等で配布し、研究シーズ集の活用をPRしたいと考えております。
10	産学官金交流会	社会、市民に開放された大学。講座の市民への公開・聴講生制度など。	学生が受講している授業科目の一部を市民に公開する、「市民開放授業」を実施しています。他に本学（学部・大学院）で開講している授業科目について1科目又は数科目を履修することができる「科目等履修生」の制度があります。
11	産学官金交流会	産業界、市民との交流を充実させてほしい。	産学官金交流会、畜大・信金・財団ものづくり相談会の個別事例対応や直接入る電話相談などの対応を今後も継続し内容の充実をはかってまいります。 また、上記No.3の対応状況に記載している体験学習型事業により市民との交流を図っている他、外国人留学生との国際交流事業、市民の皆様と馬を通して交流を図る「ちくだい馬フォーラム」などのイベントを実施しております。これからも年間を通じて、地域住民の皆様との交流機会の充実に努めてまいります。